

2025年 わだつみ会 8.30集会のご案内

日時: 2025年8月30日(土) 14:00~16:30

場所: 大阪国労会館 1階ホール (JR大阪環状線 天満駅)
Zoomでオンライン配信 (裏面の案内をご覧ください)

ユン ボンギル

講演題: 「尹奉吉」追悼の意義とその闘い

講師: 田村 光彰 さん



元北陸大学教員・尹奉吉義士共の会会長、
大東亜聖戦大碑の撤去を求め、
戦争の美化を許さない会事務局長等を歴任

資料費: 一般: 1,000円 / 学生: 500円 / 障がい者: 無料

抵抗者

ゲオルク・エルザーと尹奉吉

田村 光彰



抵抗は権利であり義務である
ナチ・ドイツと日帝植民地下の朝鮮。
自由・独立のために命を賭して闘った、
ゲオルク・エルザーと尹奉吉の人と思想。
三一書房

抵抗は権利であり義務である

権力により人権が侵害されれば、
抵抗は権利であり義務である

「人権が公権力によって侵害されたなら各人の抵抗は権利であり義務である」。

ドイツのナチ政権下での反ナチの闘いの中で、抵抗を企て実行した人々の闘いへの讃歌である。それは同時に、大日本帝国の植民地支配下における朝鮮半島で、そして中国で、アジア太平洋で闘った人々への讃歌である。

(田村著「抵抗者」から抜粋)



金沢にある「尹奉吉義士」の墓

主催: 日本戦没学生記念会 (わだつみ会)

協賛: 不戦兵士を語り継ぐ会、南京大虐殺60周年大阪実行委員会

ZOOM 参加の申し込み方法



ZOOM を使用しての参加をご希望される方は 8 月 25 日までに
事務局アドレスに、お名前と住所を記して申込みください。

参加申し込みされた方には、8 月 25 日までに URL と資料を送ります

事務局アドレス: info@wadatsumikai.com

大日本帝国による朝鮮侵略と 植民地化と過酷な支配

大日本帝国は明治維新の直後から、朝鮮半島・中国への侵略を開始した。

1875年(明治 8)の江華島事件を端緒に朝鮮の植民地化攻撃が始まった。その中で日本軍は朝鮮王宮を武力占領、「日清戦争」、「日露戦争」と続き、日本は韓国の「外交権」を奪い、軍隊を解散させ、警察や司法の「司法権」を奪った。そして言論・結社・出版・表現の自由を奪った。そして農民から農地を取り上げた。その仕上げとして1910年に「韓国併合」が行われ、朝鮮総督府による過酷な支配が進められた。憲法は施行されず、国会は開設されず、治安維持法によって民主主義と民族の独立を求める運動は残忍に取り締まれた。

尹泰吉は「韓国併合」の2年前の1908年に生まれた。

(田村著「抵抗者」から抜粋)

尹泰吉の闘いは祖国解放と民族独立

尹泰吉は26歳で故郷に夜学を開設し農村で啓蒙活動を行った。その後1930年に上海に亡命し、大韓民国臨時政府の運動に加わった。1932年、上海で「天長節」に日本軍による「上海占領」の祝賀会が開かれた。彼は「敵の将校を殺戮」し、「祖国の独立と自由を回復する」ために、式典に参加していた日本軍の上海派遣軍司令官に対し怒りの爆弾を投げつけた。尹泰吉は逮捕され、大阪を経由し金沢に送られ1932年12月19日で銃殺され密かに暗葬された。戦後、在日朝鮮人の努力により発掘された。

(田村著「抵抗者」から抜粋)

金沢市で計画されていた尹泰吉の追悼記念館の開館が延期される見通しとなった(2025年3月31日)。右翼団体を中心に抗議活動が激化していた。(産経新聞)



韓国ソウルにある4義士の墓
左から、安重根、李泰昌、尹泰吉、白貞基

講師紹介: 田村 光彰さん

埼玉大学理工学部に通学が、在学中にベトナム反戦運動に関わり、ベトナムにおけるアメリカ合衆国の関与に対する批判意識からナチス・ドイツへの関心をもち、卒業後に金沢大学文学部に転じてドイツ文学を学び、さらに大学院に進学。北陸大学で法学部教授として勤める。

第2次世界大戦の敗戦国である日本とドイツの戦争責任問題、ヨーロッパにおける移民や難民問題の研究を行う。

「尹奉吉義士共の会」会長、「大東亜聖戦大碑の撤去を求め、戦争の美化を許さない会」事務局長等を歴任。また石川県教職員組合の「いしかわ教育総合研究所」の所長を務めた。

【主な著作】

- *『統一ドイツの苦悩—外国人襲撃と共生のはざままで』 技術と人間、1993年
- *『現代ドイツの社会・文化を知るための48章』 明石書店 2003年
- *『ナチスドイツの強制労働と戦後処理』 社会評論社 2006年
- *『抵抗者 ゲオルク・エルザーと尹奉吉』 三一書房、2019年
- *『抵抗は義務か? ゲオルク・エルザーと尹奉吉 三一独立運動から日韓の友好交流へ』 論座 2020年
他に訳書多数

日本戦没学生記念会 (わだつみ会)

連絡先: info@wadatsumikai.com